

大会申し合わせ事項

(70球制限無し)

1. 大会適用規則

本年度公認野球規則、競技者必携に定める規則及び本取の決め事項を適用して行う。

2. 競技運営に関する注意事項

- (1) 主将会議で説明または決められた事項は、必ずチーム全員に徹底すること。
- (2) 会場に到着後速やかに打順表3通を本部に提出し、登録簿と照合の後、球審立ち会いのもとに攻守を決定する。
打順表への記入は、登録された選手全員を記入すること。 なお、女子選手には背番号数字を丸で囲う。
第1試合 : 試合開始予定時刻の30分前まで
第2試合以降 : 前の試合の3回終了時または試合開始予定時刻の30分前のいずれか早い方
- (3) 攻守決定の時に、試合で使用する捕手用ファウルカップ、サングラスを持参し審判による点検を行なうこと。
またテーピング等をしている選手がいる場合、その選手を同伴して申告を行うこと。
- (4) 参加登録書提出後の選手の変更・追加・背番号の変更は認めない。
- (5) ベンチに入れる人員は、ユニフォームを着用した監督30番、コーチ29番・28番および選手20名以内と、チーム代表者1名、スコアラー1名、マネージャー1名とする。ただし、監督、コーチは成人者でなければならない。
- (6) ベンチ入り選手は10名以上となるよう努めることとし、大会においては選手9名以上で試合成立とする。
- (7) ベンチは抽選番号の若いチームを1塁側とする。
- (8) 守備時間が長い場合には健康維持を考慮し審判員の判断で給水タイムを設けることとする(試合時間として処理する)

3. 大会特別規定

- (1) 試合は7回戦とするが、75分を過ぎたら新しいイニングには入らない。
- (2) 規定時間が経過したら回数に関係なく正式試合とする。
- (3) 得点差によるコールドゲームは、3回以降10点差、5回以降7点差とする。
- (4) 7回もしくは規定時間を完了して同点の場合は、その時点で出場している9名の選手による抽選で勝敗を決定する。
但し、早々決勝以降はタイブレーク方式とする。タイブレーク方式は、無死1、2塁・継続打順で行う。(前回の最終打者を1塁とし、その前の打者を2塁とする。)
- (5) タイブレーク方式で2回を完了しても決着がつかない時は、抽選で勝敗を決定する。
ただし、決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決するまでタイブレーク方式を続行する。
- (6) 暗黒、降雨などで正式試合の成立前に中止になった場合、また正式試合が成立したが同点で試合が中止の場合は、翌日に特別継続試合を行うことがある。ただし、決勝戦は再試合とする。正式試合が成立しない場合は、打ち切りになったところから試合を行うが、正式試合が成立した場合は、暗黒コールドゲームが宣告される。
- (7) 抗議権を有する者は、監督か当該プレーヤーとする。
- (8) 変化球を投げることを禁止する。審判員によって変化球と判断された場合は「ボール」とし、監督および投手に嚴重注意する。注意したにもかかわらず、同一投手が同一試合で再び変化球を投げたときは、その投手を交代させる。なお、その投手は他の守備位置につくことは許されるが、大会期間中、投手として出場することはできない。
- (9) 投手の投球制限について、1日7イニングまでとする。ただし、タイブレーク方式の直前のイニングを投げ切った投手に限り、1日最大9イニングまで投げるができる。なお3年生以下にあっては、1日5イニングまでとする。
- (10) 監督が1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式も含む)は、2イニングに1回とする。
- (11) 捕手を含む内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式も含む)となった場合は、2イニングに1回行くことができる。野手(捕手も含む)が投手の所へ行った場合、そこへ監督が行けば、双方1度として数える。逆の場合も同様とするが投手交代の場合は、監督のみ回数には含まない。

- (12) 攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式も含む)は、2インニングに1回とする。
- (13) 試合前のシートメックは行わない。攻守決定後、会場内のブルペンで先発バッテリーに限り練習することを認める。
- (14) 会場内でのバットを使用する練習を禁止する。
- (15) ベンチ内での電子機器類(携帯電話、パソコン等)、携帯マイク及びカメラ・ビデオの持ち込みを禁止する。メガホンはベンチ内に1個に限り許可する。
- (16) 選手、監督、コーチはユニフォーム、アンダーシャツ等、全員同形・同色のものを使用すること。代表者、スコアラー、マネージャーはスポーツに相応しい服装とするが、ユニフォームを着用する場合はチームと同一の服装(ユニフォーム、アンダーシャツ等)とし、ユニフォームの上着は監督・コーチと区別できるようにすること。
- (17) 作画的な空タグを禁止する。現実には妨害(よるめたり、押し)速度が鈍った場合)になったと審判員が認めた場合は、オストラクションを適用する。
- (18) ファウルボールは、1塁側のものは1塁側ベンチ、3塁側のものは3塁側ベンチ、本塁後方のものは攻撃側で処理する。ボールボーイ、バットボーイはヘルメット着用のこと。
- (19) 対戦し両チームの監督、コーチはグラウンド整備に協力すること。
- (20) 審判等、場外での応援は行わない。また、ウイッグは球場以外ではメガホン等での応援を行わない。

4. 使用球

大会使用球は、全日本軟式野球連盟公認球J号とする。(本部が用意)

5. 試合のスピード化に関する事項

- (1) 試合はスピーディに運ぶよう努め、1試合の競技時間は90分以内を目標とする。試合の進行状況によっては、タイムを制限することもある。
- (2) 当日の先頭打者と次打者、ベースコーチは、ミーティングには参加せず、直ちに所定の位置につくこと。
- (3) 打者は、速やかに打席前に入り打撃姿勢をとること。また、打席内でサインを見ること。
- (4) 試合中スライクの起る際無断的に結び直すためのタイムは認めない。
- (5) 走者は、ファウルボールが行ったとき、駆け足で元の塁に戻り触れること。
- (6) 投手は、投球練習は初回5球、2回以降は3球とする。

6. その他

- (1) 大会日程上の都合でダブルヘッダー(1日2試合)となる場合がある。
- (2) 天候不順等で試合中止の判断は各試合会場で行うので、第1試合のチームは会場に集合する。中止の連絡は支部長を通じて行う。日程変更の連絡も原則支部長を通じて行う。
- (3) 会場準備の必要がある場合、当日試合予定のチームは指定する時間に1名以上集合すること。
- (4) 駐車場は全会場において7台/チームを上限とする。会場によっては制限する場合があるので、本部の指示に従うこと。
- (5) 試合終了後は会場内でのミーティングは行わず、速やかに駐車場を空けること。
- (6) ごみは各自持ち帰ること。
- (7) 参加チームはスポーツ傷害保険に加入していなければならない。大会期間中に発生した傷害事故等について、主催者側は一切の責任を負わない。
- (8) 会場内(公園、学校(周辺道路を含む)等)は禁煙を厳守すること。
- (9) 事故等の緊急連絡先：大友(おおとも)090-6794-1621
- (10) 開会式にはチームフラカードを持参する事。
- (11) ロジアンバッグはチームで用意する。